

I hate you baby ♡

182BB ♡
Presented by Maton

R18
Adult only

I hate you BABY♥
182BB♥
BLITZO×VEROSIKA

CAUTION

- 捏造の設定があります
- 軽い小スカ(おもらし)表現があります
- リバ表現(女性攻)があります
- 成人向けにつき、18歳未満の方の閲覧を禁じます



スポットライトの
下にいるのは好き

いじめる

あたしと
歌だけが
存在する

あたしだけの

世界

なにも
見えない

だれも
居ない



やめてよ

ヴェロシカ!

どうして
俺のこと
ブロックしたんだ

邪魔しないで

ヘイ、ビッチ

その物騒な
マイクは
仕舞ってくれよ



今はお前の
ステージじゃ
ないだろ

さあ
続きをドーズ
歌姫さん

おとなしく
しろ!!

おい
触るな!!

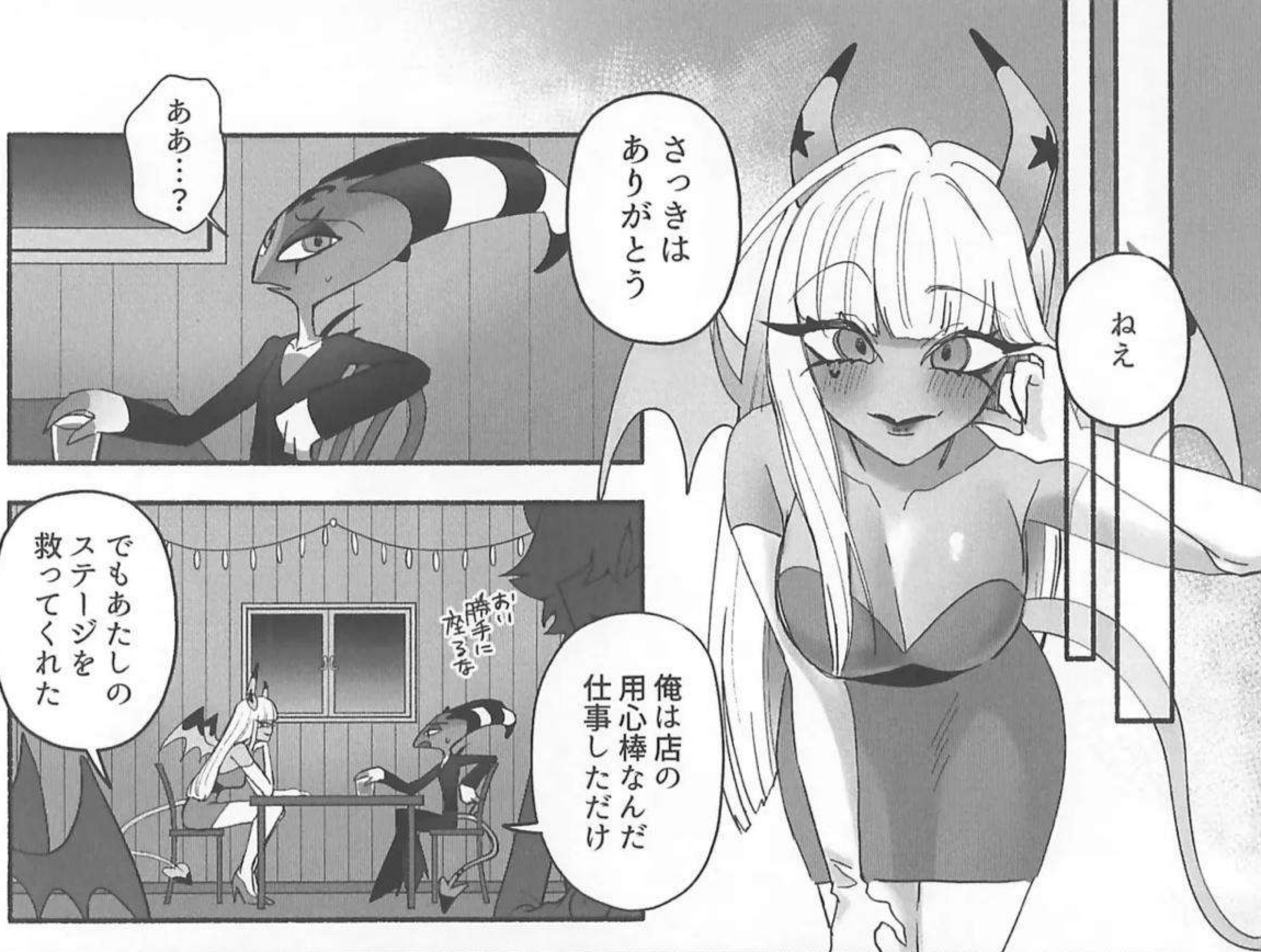
離せ!

何もない世界に
現れた赤色から

ギッ

目が
離せなかった





ああ……？

さつきは
ありがとう

ねえ

でもあたしの
ステージを
救ってくれた

おい
勝手に
座るな

俺は店の
用心棒なんだ
仕事しただけ

何だ
その言い方

とでも
言っておくか

…大変だな
人気者は

愛してるとか
言われちゃって…
本気にしちゃって
やーね

ああ…あいつ
先週振った男でさ

ファンだって
言うから
いい顔してたのに

こんな
場末のバーで
歌ってる一般悪魔が
何様だって話だけど

金曜のステージを
任されるくらいだ

認められてん
だろ

ふふ
まあね

俺なんかと
飲んでたら
噂になっちゃうぞ

カラ

さつさと
いい男に
奢ってもらいな

喉に
良くないから
お酒は
飲まないの

それに

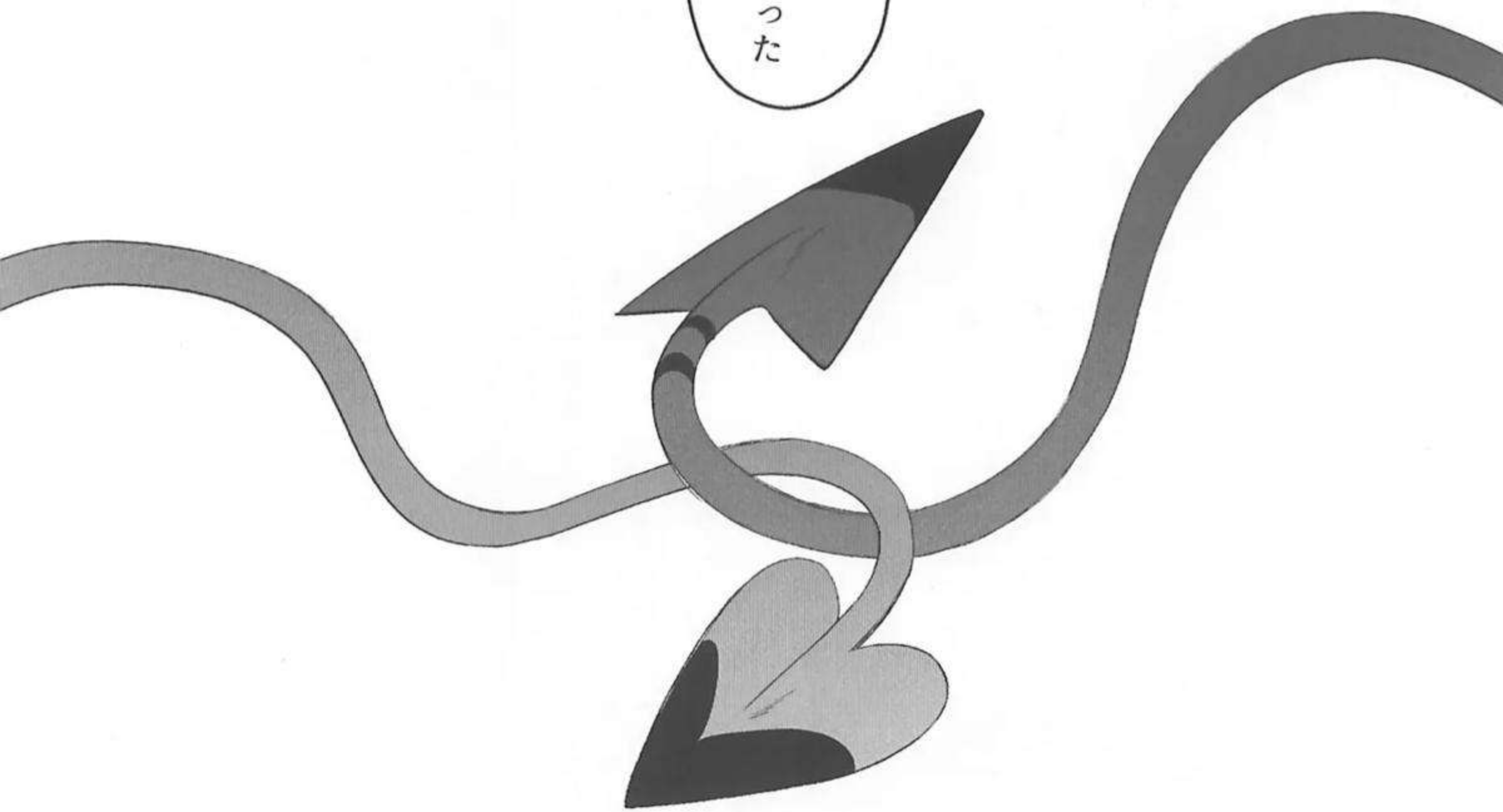
あたし
今ちようど

へえ？

いい男を
口説いてる
ところなの♡

上手くいくと
いいな

もう
上手くいった



んっ…

MOTEL
366

ギョッ

んっ…

ギョッ

んっ…

んっ…
んっ…

ねえ

サキュバスと
寝たことある？

ほろろ





あたしは

あつたかも
しれないし
無いかもしれない

あー？

なんだ...？
身体が熱い

なにそれ？
まよいわ

あたし達は
セックスのために
いいものが
沢山ついてるの

唾液にも
媚薬効果が
あるから

どきどき
してきた
でしょ？

それが
すごく嫌い

それか...
ぽか
ぐ



でも

オリッ

それを
使うことしか
能がなくて

そんな
自分も

だいっきらい

あー！
厭なら
やめるか？

それなら今すぐ
便所でスマホと
ペッティング
してくるけど

悪いが俺は
ちんこ
ギンギンだ

あ
ちんこ
♡

アハハ

今から
やるってのに
野暮な話して
悪かったわ

スマイルにも
あやまんねん

え…

!!
#

…俺は
お前の歌
悪くなかったと
思うけど

その能は
あるんじゃ
ねえの

あと

セックスは
俺の方がうまい

ちんこも
ズカイ!!

ぷっ

はあ？
そんなわけ
ないじゃない！

あたしは…
サキュバスよ

まあ
試してみようぜ

セイレーンより
歌が達者な
サキュバスが
いるくらいだからな

サキュバスより
床上手な
インプがいるかも

あ…

ヘロオ

シャワー…

はあ…
はあ…

いらないだろ

その方が
燃える

ん…♡



ん…

もじ…

あっ…

ドクン♡

ちゃっ

ちゃう

くちのなか…
あっ…

誰の
せいだよ

はあ…

下も
焦れてるだろ

ほら腰
上げろ

ん…♡



ハ…

ふふ

あー
なるほどな

最前列が
埋まるでしょ

いつもこんな
エロい下着
つけてんのか？

めろ…♡

あん♡

もう
ぐしよぐしよ
じゃねえか

これ
愛液も媚薬？

そう…

とっても
ホットに
なれるわよ

クンニしたら
媚薬で
キマれるって
わけか

ん…♡
んんっ…♡
そう…だからアッ

これ
媚薬って
お前にも
効くの？

んっ…♡
どうかしら
自分のプツシー
舐めたこと
ないから…♡

あ♡
あ…♡



ほら

しゃぶって
みるよ

んんっ…

どうだ？
効いてるか？

ん…
ふうッ…♡

アッ
ぐちゃ

はっ

はあ



効いてるかは
わからないけど

はっ♡

めと…

はー♡

はっ

もっと太いのを
喰えたい
気分よ…♡



俺も
ちようど

媚薬の味が
気になってる

はあ

すっ







あつまって
ソコ…♡

あうっ…

きゅん

こん
…っ？

だめ…
だめっ…♡

あっ…あ…
つくっ…

つあ！♡
ああっ…♡

出そう

俺ももう
だめだ

先に…
いつちやった…
サモイェ
なにも





ん...
おつきい...♡

っ...!!
おい...

あー♡

ずる...
ずる...

い...
い...

キ/420

くそ...

っあ...あ...
すげ...

早くこの凶器で
ぐちゃぐちゃに
して...♡

まだできる
でしょ?♡

誰かさんの
ラブジュースの
お陰でな...

はあ...はあ...

く...
く...



いい声で
歌ってくれよ

歌姫…

サマシ♡

なんだその声は
あのバーの
水曜の音痴女
馬鹿にされるぞ

あつ

んツ…?
ううっ♡

ゼータ
ゼータ

お…♡

届いちゃ
いけないところ

打ち付け
られてる…ッ

トニートニート
トニートニート

あゝ♡

みんみん♡
みんみん♡

あつ…♡
はあつ…

だめ…また
いく…っ

お♡

ビュッ
ビュッ
ビュッ

ビュッ

ビュッ

ビュッ

ビュッ

ビュッ

ビュッ
ビュッ
ビュッ

ビュッ

ビュッ

おいおい
早いんじゃないか？

サキュバスの
名が泣くぜ？

ぬほほ

ズン

！

う…
まって
まだあたしっ

いま栓
ちんぽ
抜かれたら

ぞろぞろ

ビク

アツ！

おーおー

う…
う…
う…
う…
う…

サキュバスの
媚薬って
すごいな

キーン♡
キーン♡

ハッ

ズン

どつちが
いい？

入口よわしく
責められるのと

奥ガン突き
されるの

ん？
奥が
お好みか？♡

奥でぎゅって
してあげる♡

うん…♡





あゝ
すげ…

なか
トロットロ…

あゝ
すげ…

クッ

あゝ
すげ…



あ

クッ

はは…すげ…
吸盤みたい
に
吸いついてくる

あゝ
すげ…

あゝ
すげ…

あゝ
すげ…

俺のちんぽ
そんな
美味いか？

あ

あゝ
すげ…

ドクドク

ドク

ドクドク

ドクドク

おいひ…♡



あゝ
すげ…

あゝ
すげ…

あゝ
すげ…

あゝ
すげ…

ほら
ぎゅっとして
くれんだろ？

あゝ
すげ…

まんこ締めろ

クッ
クッ

サキユバスだろ？
もつと頑張れよ

へにち

もっ♡だめッ…
脚…
立たにやあ♡

ジュン

はっ
はっ
はっ

ギギ
ギギ
ギギ

でも
この体位
のほうが…

キーン
キーン
キーン

奥まで
ぴったり
入るッ…か？

はっ
はっ
はっ

ズク
ズク
ズク





あのステージに
立ってるのだって

あそこの
マスターと
寝てんのよ

クソみたい

ギ
ニッ
その
なにが悪い？

お前の力で
勝ち取った
スポットライト
だろ

俺らみたいのは
そうやって
生きてくしかない





ねえ
あたしが
歌で有名に
なったら

ボディガード
として
雇ってあげる

あんな
クソみたいな店の
用心棒なんて
やめてさ

あー？
考えておいて
やるよ



じゃあ
まず初めに



あたしの
彼氏とかは…
どう？

ブリッツオ

：面白そうな
職業だな

業務内容を
詳しく
教えてくれよ

まずは
そうね…

つまらない映画を
一緒に観て
野次を飛ばす
とか？

悪くはないな
採用だ

採用するのは
アタシでしょ

くすくす



182 BBX♥
183 BBX♥
I hate you BABY♥



あたしの
あのピンクの
石どこやったの!?

ハートのやつに……

ブリッッ!

おや

+



石……?

あんたが昨日
酔ってケツに
突っ込もうと
してたやつよ!

しへへへ

あー……
ケツに
突っ込んだ



大事な
仕事道具なの

アスモディウス
から与えて
もらってる

地上へ
行くための
石よ

今日マギだの
うがねの



ふーん……?

まくら



冗談だ冗談!
サイドテーブルの
引き出し見る!

ゴッゴッ

ゴッゴッ

LaLaLa...

お姫様

あなたを守る
騎士は死んだのよ

だからね
あたしの世界は
あたしが守る

ガラスの靴
たたき割って

ガッパン



SPECIAL GUEST

- ♥ meistou 様
- ♡ 煩惱 様
- ♥ 悪酔い 様
- ♡ 鮭野とば 様
- ♥ アロエ 様
- ♡ 最寄りの 様

掲載順

素晴らしい作品をありがとうございます！



Not Romance

ん...

セクシー？
それとも
キュート？

コスプレも
アリかしら

Sexy



あら随分
大サービス
ね！

彼の
バースデー？
それとも
昇進祝い？

...どっちもハズレ！
出会って3ヶ月の
記念日なの♡

Cosplay

アタシたち
それじゃサキユバスの
名にかけて
カレの一番喜ぶ姿で
ベッドに誘わなきゃね！

.....

Atchukism
hospidation and
sing that notes for



そんな
バカだから

3ヶ月記念なんて
覚えてないクズでも
愛してるのよ



いつか
アンタのことも
私に救わせてよ



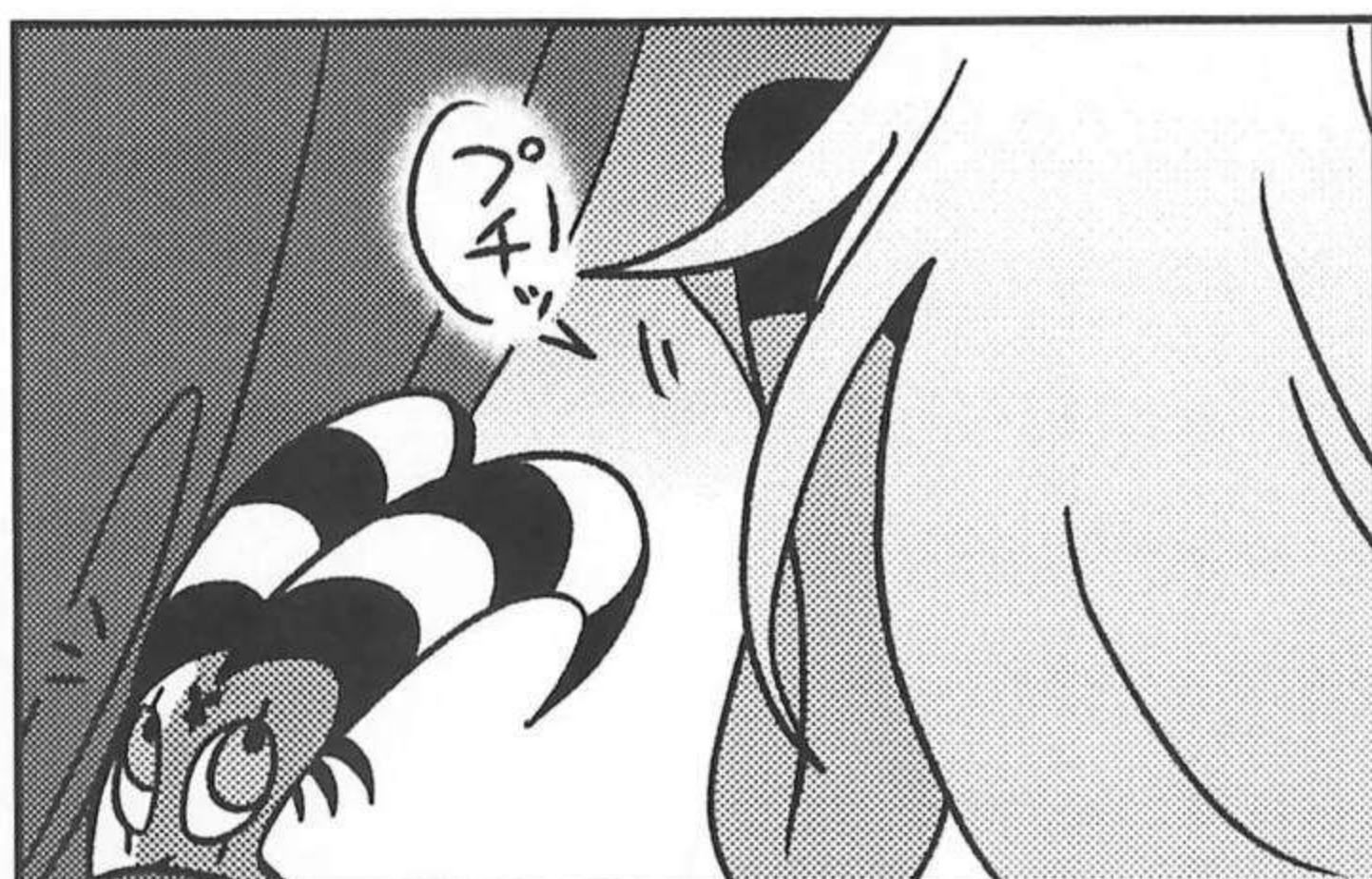
私まだ

アンタの
バースデーも
知らないのよ

END









リビート・セイレーン・クリスタル

アロエ・B

来年はひと回り大きな会場を借りよう。

ヴェロシカは浮かんだ考えに、ふと虚しくなった。彼女がポップスターになる前、こうやって胸に咲くトゲトゲの花を散らしてくれるのは、握っている酒瓶だけだった。

ヴェロシカは、ハートで綴った名前を腕に刻むくらい愛したひとに捨てられた。

しかも、『I love you.』と伝えただけで。

そのショックは、彼女をあつという間に酒へ溺れさせ、手の震えが止まらなくなる夜もあったほどだ。この震えが、どちらの禁断症状なのかなんて知りたくなかった。だから、もっと酒を飲んだ。

マイクを握っている瞬間だけは震えが止まる。ヴェロシカは、がむしやらになって歌い続けた。

ハートが壊れてしまったからといって、世界が破壊するわけでもなく、明日は続く。

彼女には、夢も、意地もあった。

憎しみも苦しみも、メロディーに乗せてしまえば歌詞の全部が愛おしかった。そうしてポップスターに上り詰めたヴェロシカを包むのは、かつての逞しい腕ではなくて、輝かしいステージとファンの歓声になった。

ヴェロシカの歌にファンが共鳴し、叫び、ときには涙するように、彼女のひび割れた魂を、ステージが昇華させてくれた。

彼女が年に一度催しているパーティーは大盛況で、参加者は増える一方だ。

招待状を作るとき、ヴェロシカはとつくの昔に掠れたはずの、トゲトゲの花と再会することになる。

この花は、棘だらけで、真っ赤で、そうして、ヴェロシカを照らしてくれているスポットライトをどかして、ポップスターでもサキユバスでもない、自分を捨てた男が忘れられない、ただの惨めな女へと戻そうとする。

（ねえ、アタシの何がいけなかったの？）

ヴェロシカは、頭の中で真っ暗なトンネルに質問

を投げかけてみる。トンネルは、ひゅうひゅう、風の音がして、すーっと闇の方へ導くように冷えている。

返事は、どれだけ叫ぼうが返ってこない。

でもね、もう……。いいや、いまは、踊ろう。

独りで居ると繰り返してしまふ考えを中断し、パーティー会場を見渡すと、大勢の中に慣れていない様子の、迷子の顔をしたインキュバスが視界に入った。新顔だ。

ヴェロシカは駆け寄って、声をかけた。

「ハロー、最新の元カレさん」

「俺、なんて言っているのか……」

「そのままでもいいのよハニー。いずれ言葉が見つかるわ」

肩を振るわせ涙ぐんだインキュバスの背中をさすってやりながら、ヴェロシカは紙コップを渡した。

乾杯は、掠れた音がする。

「ここに居るみんな、あなたの仲間よ」

「デートした次の日、連絡が取れなくなってそれっきり」

「リビングでお姉ちゃんとセックスしてた」

「俺の父親ともセックスしてた」

emil・ブリッツォ・パーティーに集まった悪魔たちは、

ブリッツォ・バックゾーとの思い出を語っては、怒り、悲しみ、泣いている。

ここが、傷口を晒せる場所になればいい。

アイツに届かなかった声も涙も全部、アタシが歌ってあげる。

ステージに立つと、特別な景色が見られる。

ここはまるで独りきりで、独りじゃない。

鳥だけが山の景色を眺められるように、ヴェロシカは会場いっぱいに集まった悪魔たちの顔をひとりひとり、眺めた。

大きく息を吸って、震える肺と心臓に酸素を送り込む。

ワン、ツー……

メンバーの合図に合わせ、ヴェロシカはマイクを握って、叫んだ。

「Fucking・Blitzo!」

「……なあ、本気でやるの」

「かわいいー、ビビってんの？」

「おい、馬鹿にすんな」

ブリッツに睨まれても、おでこが冷や汗で濡れていたから、ヴェロシカはちっとも怖くなかった。

透けたピンクのベビードールに身を包んだヴェロシカは、凶悪なサイズのペニスバンドを装着している。

ブリッツは目線を下げると、不味いアイスコーヒーを飲んだときの顔をしてみせた。

白目を剥き、二又の舌を出して、『うげえ』のジエスシャーをする。

大好きな、彼の表情だった。

ヴェロシカが、思わずクスリと笑う。

ブリッツもリラックスした表情をした。

「俺はケツ穴掘られる趣味なんか無えの」

「アタシのショー観にくるって約束、すっぱかしたお詫びになんでも言うこと聞いてくれるんでしょ？」

「それは……言った」

「ほらね」

ブリッツは白いシャツに黒のパンツ姿のまま、両

手はリボン（ヴェロシカのファンが贈ったプレゼン
トを包んでいたものだ）で縛られ、ベッドの柵に括
りつけられてしまっている。

ベッドから少し離れたところには、皺くちやになっ
てしまった黒い上着と、黒光りした靴があっちこっ
ちに跳ね落ちている。

「はあいダーリン♡リラックスして」
「ファック！」

ブリッツの悪態も無視して、ヴェロシカはシャツ
のボタンを慣れた手つきで外した。

駆け出しの歌手ヴェロシカと、殺し屋兼ボディー
ガードの依頼でなんとか生計を立てているブリッツ
は、仕事が転がり込んでくるだけラッキーで、暇な
時間はあっても、とにかく金がなかった。

そのくせ、どちらかが——ほとんどの場合、ブリッ
ツが——約束を守れないなんてことはしょっちゅう
で、ヴェロシカが「なにがあっても絶対に来て」と
念を押して渡したチケットも、無駄になってしまっ
たようだった。

やっこの思いで掴んだチャンスだったから、ステ
ージに立った姿を見て欲しかったのに。

シャツを左右に広げると、服を剥かれた赤いインプの肌が見える。

ブリッツは、顔も身体も、半分ほど白っぽく焼けていて、酷い火傷の跡なのが分かる。

ざらついた肌に手を胸から下に這わせていくと、割れた腹筋で手のひらがなみなみに動いた。

焦った呼吸が聞こえてくる。

「脚、広げるから」

「おい、待っててば……!」

ヴェロシカが膝を掴み、ぐい! と、開いた。

いくら両手を拘束しているとはいえ、男の力で暴れられたら、ひとたまりもない。

ブリッツは嫌そうな顔をしつつも、本気で抵抗しているわけではなかった。それが、ヴェロシカは嬉しかった。

「ダーリン、いいこね」

ヴェロシカが耳元で囁くと、チラリとだけ目を合わせたかと思うと、すぐにそっぽを向かれてしまった。

「ふう♡」

「……!」

インプのツノの下、小さくて見つけにくい、耳の穴。

甘い吐息を吹き込むと、ブリッツの瞼が震えるのが分かって、ヴェロシカはにんまりとした。

性欲を呼び覚ますように、サキュバスのざらざらな舌で、小さな穴をほじってやる。

サキュバスの才能なのか、それとも身体の相性がよかったのか、ヴェロシカは、ブリッツのテンポにぴったりと合わせることができた。

「んんん……はあ♡ダーリン……」

「……」

熱で、ヴェロシカのピンクの肌が、濃くなる。

細い穴に、ぬちぬちとぬるついた舌が掘り込まれては、ずるりと這い出す。

「ぷはあ♡ダーリン、返事して」

「……」

ブリッツは返事をしないどころか、頑なに顔を背けている。

ベルトを外し、チャックを下ろせば、ポップな馬柄のパンツを履いていて、布越しに主張しているビクサイズなペニスに、ヴェロシカは舌なめずりをし

た。

あやすように、パンツの上からペニスを撫でる。

切り揃えた前髪をブリッツの首に擦りつけながら、ヴェロシカは赤い肌をチロチロと舐めていくのと同じ時に、片方の手ではペニスを扱き、もう片方の手を、小さなおしりにあてた。

「残念、綺麗に洗えてるわ」

「……お前、が、弄、るって言うから」

ブリッツの、上質な筋肉によって柔らかなおしりはしっかりと洗浄済みで、ヴェロシカの細い指が三本もやすやす咥え込めるほど慣らされていた。

『なんでも言うこと聞いてくれるなら、今夜はアタシに抱かれてよ』

ヴェロシカのお願いに、ブリッツは洩りに洩っていた。

なぜなら、ブリッツはバリタチ。つまりボトム役はお断りなのだった。

だが。

『……時間をくれ』

ブリッツはそれだけ言うと、バスルームに数十分閉じこもり、出たかと思うと、

「俺が暴れないように縛ってくれ」

と、両手を差し出したのだった。

「ダーリン、挿れるよ」

「う……」

ぎし、ぎし、と、重くベッドが軋む。

ヴェロシカは、ブリッツを抱きしめて、ゆすった。ブリッツは、顔を血液の色に染めて、それでも歯を食いしばっている。

「ダーリン、アタシが気持ちいいところに、連れてってあげる」

だから、アタシには全部見せて。

「……う」

「ダーリン、アタシと呼吸を合わせて」

ヴェロシカが顔を寄せ、囁いたそのとき。

「おいで、ヴァー」

「え？」

ぎゅっと抱きしめられる。

「なに……？」

「どうしたんだよ、もっと動いてくれ」

ブリッツのトゲトゲのしつぽが、ヴェロシカのしつぽにくるくる、絡んで、恋びと繋ぎになる。

慌ててヴェロシカの翼が羽ばたく。うすいピンクの膜に悪魔の血管が疾って、黒い稲妻に見えた。

「うあ、まって、ブリッツ！」

「ヴァー、俺を連れてってくれるんだろ。頼んだぜ」
そこからは、ブリッツのペースに吞まれてしまった。

挿入したのはヴェロシカだったのに、おしりにオモチャのペニスを咥え込んだままのブリッツにイカされてしまった。何度も。

情事が終わると、とたんに夜はつめたくなる。

ベッドの上で並んでいるのに、恋びとはこちらを向かない。

抱きしめようとする、ブリッツは、抵抗するかのように、きゅうっと丸まってしまう。

三つのトゲが、立って、空気を刺した。

「ブリッツ、ブリッツ、ブリッツ……」

ヴェロシカの声は救難信号のように、夜に溶けていった。

もう、あの日には戻れない。

戻れたとしても、ヴェロシカは戻らない。

愛していたわ、ブリッツ。

いまだって、きつと愛している。

でもね、もうおしまい。

アタシには、歌がある。

ステージがある。ファンがいる。

ここじゃ見えない景色があるの。

いつまでも立ち止まってらんないわ。

だから、きつと観に来て。

「変わりたいんだ」

初めて聴いた声だった。

ブリッツが受け取った信号を灯したのは、自分じ

やない。

憎たらしくも愛おしい、アタシの運命だったひと。

ヴェロシカはイジワルに微笑んだのだった

おしまい

ヴェロシカ!

待たせたか?

急に誘って
悪いな

ストラスの
プレゼント選び
よね?

何渡すかはもう
決めてるの?

ああ
でもどの店がいいか
分からなくてな

お前ならそーいう
洒落た店たくさん
知ってると思って

当たり前でしょ
任せなさい



それにしても

今日は随分と
ラブな格好だな

記憶の中の
グエロツカ

昔はもつと……
派手なカンジだったのに



まあ
当然か！

毎年アンチパーティー開く
ほど憎い奴と出かけてる
なんて知られたら
ポップスターの座……

が……

ハハハ！

は……

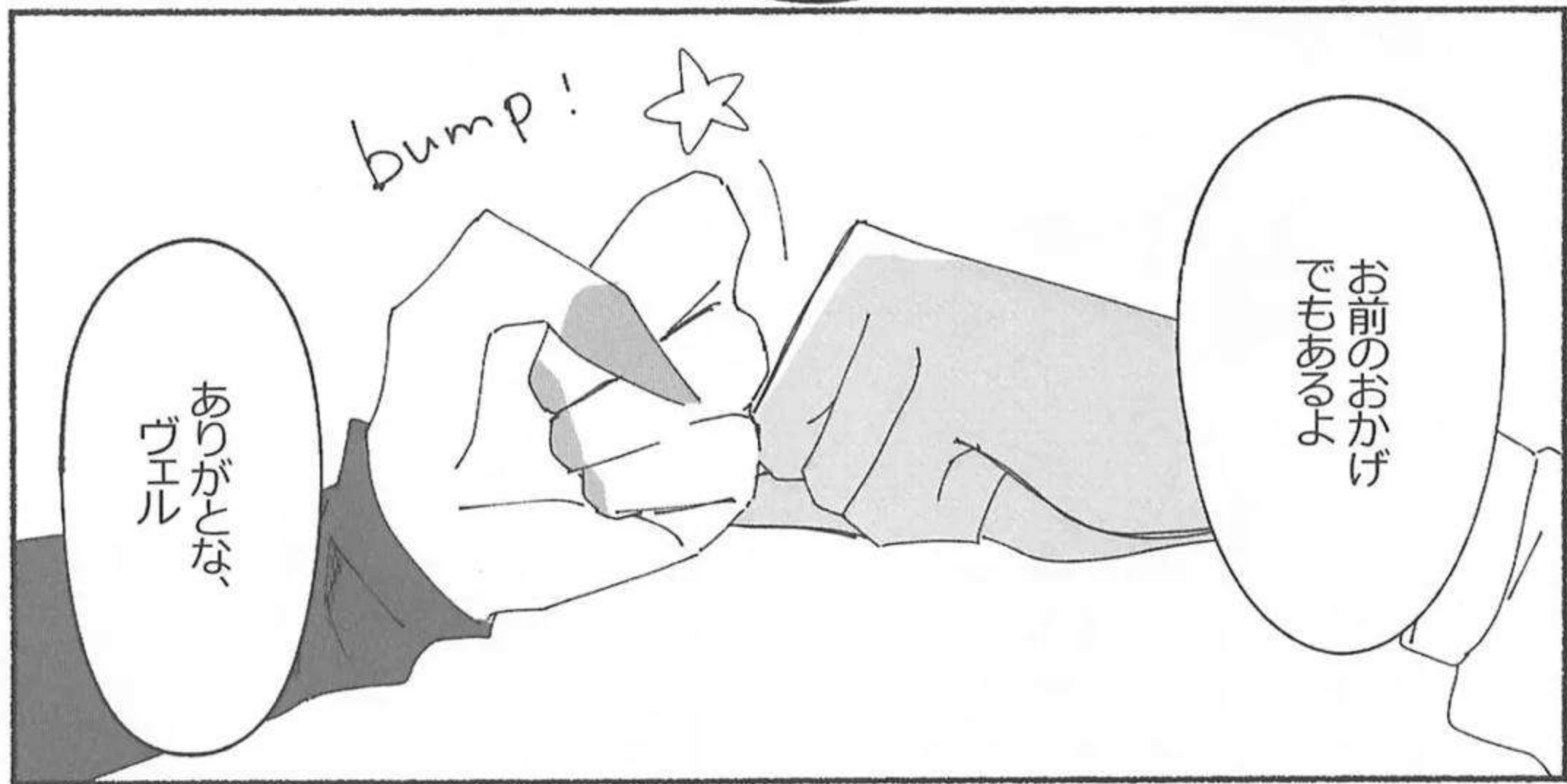


あ……

い

ちがくて
その……





素敵原稿BIG感謝のページ

meisouさん>>

画面いっぱい可愛い！！から最後のコマの生々しい事後のコントラストがmeisouさんの作品だな～！！と強く感じました…素晴らしすぎる…

画面も遊び心沢山ですみずみまで楽しませていただきました…(カルテの内容とか…)

一番喜ぶ姿を想像しておうまさんのシャツを着て出迎える「わかってる」彼女が愛らしいです。3か月記念日なんて一番楽しくて不安だ…

煩惱さん>>

今回こういう内容にしますってお伝えしたら併せてこの二人を描いてくださりました…

勝気な表情の二人が地獄の最強カップルすぎて、こんな時期があったんだよな…と謎に萌えをかみしめました…。肩と首に回した手も勿論なのだけど、ヴェロシカのしっぽがくるりとブリッツに巻き付いていて、ブリッツはしっぽを回していないのがちょっと切なくて…たまらないです…

悪酔いさん>>

悪酔いさんの作品は画面がおしゃれで可愛くて絶対に見開きにせねばと思いました…

彼好みの自分でいたいヴェロシカがいじらしくって、そして彼の好みを一番わかっていてそれにしっかりとひっかかるブリッツ…なんてナイスカップルなんだ。

私、更衣室とかシャワールームとかで致すのが本当に好きで…

えっ…このあとの30分の内容はどこで読めるんですか…

鮭野とばさん>>

私の彼、かっこいいな…もしくはセクシーなハンサムがいるな…

というヴェロちゃんの声が聞こえてきそううっとり顔が可愛い！！

ブリッツはというとその視線に気づかなくて…わああなんかこれって少女漫画だ…

とばさんこだわりのポイント満載でにこにこです。下乳に感謝。

前回の本に引き続きカラーで頂いていたので発行イベントの

ノベルティのポストカードにさせて頂きました…美しすぎる。

アロエさん>>

ご本人にもお伝えして確認したのですが、タイトルから秀逸で

セイレーン＝サイレン＝ヴェロシカ・メーデー なんですって…素敵じゃないですか？

気づいたときには椅子からひっくり返りました。

そして本当に天才の文章をありがとうございます…ヴェロシカの強さと弱さがいっぺんに摂取できる。そしてしっかりエッチ…原稿中何度も読んで励まされました…

個人的にシャツをひんむくシーンがとっても興奮しました。

最寄りのさん>>

なんかブリッツのためにいつもすっごいおめかしして可愛くしてたんだろうなと考えたらすごく萌えてしまいました…そりゃラフな格好に驚く…。

過去には一番近くにいたのだから、こうやって二人でお買い物に行けるくらいの

関係に戻れたら…ストラスのお陰だけどヴェロシカのおかげでもあるよって言われたの嬉しかっただろうな。

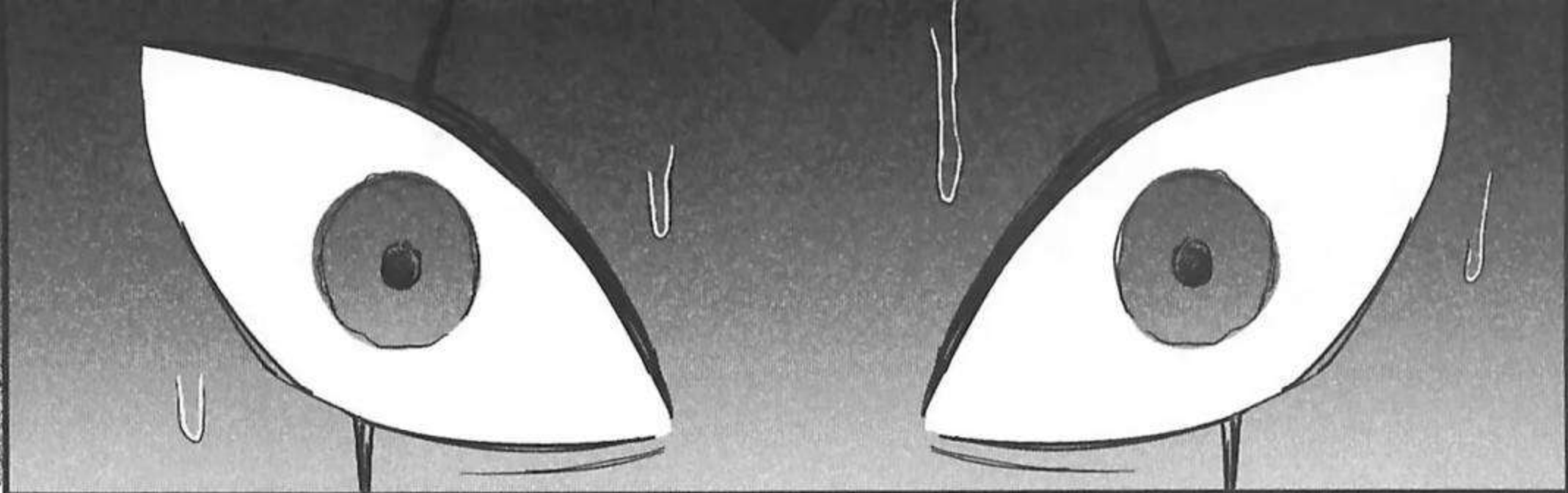
実はほんのり時系列っぽく並べてみました
素敵な作品をご寄稿頂きありがとうございます！！！！



フリッツォ!

アタシ
あんたのこと

だいきらいよ
I hate you



☆あとがき☆ミ

この度は拙作を読んでくださりありがとうございます。

二人のこといっぱい考えたのですが、結局いつも通りの中身の無いエロ本になりました。

確実にこの二人が付き合っていて、楽しく過ごしていた時期があるという事実が本当にありがたすぎる元恋人設定…そしてブリッツの元カノがサキュバスなんてえっちすぎる。と下心満載で気になり始めたカブでしたが、アンチブリッツオパーティをするくらい愛憎にまみれていたなんて！いっぱい楽しい思い出があるからこそ憎しみもひとしおなんでしょうな…なにそれ最高の二人じゃん…といったわけで今回の本が出ました。

完全に自分絵になったうえに、S1E6の悪夢に出てきた付き合っていた当初であろう(と妄想している)髪型格好のヴェロシカなので誰？状態かも…と思ったりしますがこんな出会いだったらいいなと今回描かせていただきました。

きつい性格になったのも素質があったとはいえブリッツの影響があったらいいな～とちょっと性格も丸めに…をイメージしてます。

歌の実力だけで上手いかず、くさくさしてるヴェロシカにそんな自分でもいいじゃんって言うってくれる人が現れて…といったようなお話です。

続きじゃないですけど、付き合っていたころのお話とかも描きたいな～と思いました。

そして、ブリヴェロの本ってあんまり出ないかも…わたしもあんまり出さないかも…と思って今回ゲスト様を沢山呼びまして豪華な本に仕上がりました。

ほんとうにほんとうにありがとうございます。

表紙デザインも今回依頼してお願いしたり…！お祭りじゃ！といった具合です。

タイトルに関してもめちゃくちゃに迷いました。

「182 (I hate youのスラング)」が「I love you」の対義語として二人にぴったりだなと思いつけました。

お恥ずかしながら長々とあとがきを書いてしまいましたがこの二人のことを語る場があまりなかったのでお許しください！

それではまたどこかで！

奥付

『182BB♥』

発行日：2025.5.3

印刷：おたクラブ様

発行：のあのささぶね

発行者：まとん

pixivID：pikora

X(旧twitter)：@mtn_imp

bluesky：@mtn-imp.bsky.social

mail：maton.tonton330@gmail.com

表紙デザイン：suimine様

2025年4月某日 まとん

☆Special thank☆

みなさん
411

♡いつもトーン貼ってくれてる人
♡作業おきもってくれてる人
♡イラストのみなさま…本当にカンザク
♡mtn

AND YOU!!



おこがましいですが
感想などありましたら…！⇒ wavebox

18歳未満の購入、閲覧は固くお断りいたします。

転載、複写、オークションへの出品、

インターネットへのアップロードはご遠慮ください。

処分される際は廃品回収か、専門店へお願いします。

